

東 亞 天 文 協 會

創 立 第 20 週 年 記 念 總 會

(概 況 報 告)

豫定の如く、本會創立第20週年記念の總會は、大阪市堂島の大毎三階大講堂で、大阪毎日新聞後援の下に、去る五月18日14時から開かれた。之れよりさき、同日13時から、同所別室で役員會が開かれ、事務上の打ち合はせが行はれた。總會は先づ

1. 宮森理事長 “開會の辭”
2. 山本會長 “岡林本田彗星の天文學”——同彗星の發見から軌道決定に至るまでの概況の講話があり、次いで、會長の名を以つて、岡林本田兩氏の表彰狀(別頁記載)が朗讀された。
3. 木邊觀測部長 “表彰”と“ドノホ1賞牌の紹介”と、“一般天體觀測に關する體驗上の立場から解説”あり。
4. 山本一清博士 “20年來の新宇宙知識”と題する記念講演に於いて、多方面の學的進展のトピクの中から、特に
 - (1) 冥王星及び木星第十第十一衛星發見の意義
 - (2) 珍しい小遊星“Amor”, “Apollo”, “Adonis”, “Hermes”の發見と意義
 - (3) 大遊星の大氣に關する新研究の概要
 - (4) 珍しい彗星、特にシブスマン・ワハマン彗星 1927jの觀察上の事實
 - (5) 宇宙空間の吸收物質
 - (6) 銀河宇宙の構造と自轉
 の六題を捕へて、解説と批評とあり。
5. 最後に、17時半から別室で會員のみの出席にて協議會に移り、本會規約の改正、支部規約の制定、新年度の役員の撰定があり(別頁)、次いで、清水眞一氏を名譽會員に推薦する件を満場一致で可決した。協議會の出席者28名、外に委任状を送つた會員が49名あつた。

尙ほ、19時から有志の會員たちは山本會長等を圍んで、晚餐會を開き、いろいろ歡談した。——この總會中、記念講演は一般人士に公開したため、會員以外の來聽者も多く、賑やかな會合であつた。來集した會員は、やはり京阪神附近の人々が最も多數であつたが、山口、愛媛、和歌山、静岡等の諸縣下からも珍しい顔が見え、實に愉快であつた。只、近來、氣候不順のため、本田實氏、水野千里氏、高城理事其他の人々が病臥中で、出席されなかつたのは遺憾であつた。中村氏の報告によれば、昨年來、事務局の窓から見る本會の狀況は、新入會員の激増、觀測部の發展、事業部の多事など、何れも、創立以來の活況を呈し、會長始め、役員や一般會員諸氏の心持ちを明るくさせた。世は戰時體制の非常時ではあるが、理學勃興の氣運は明らかに天文學の發達と普及とも現はれてゐること明らかである。(1941—5—19、事務室の一隅にて記す)